

障害者が酒造好適米作り 日本酒完成

造った人も 飲む人も 幸せを祈って

【ちば】千葉県大網白里市で、農業に取り組む障害者が栽培した酒造好適米を使った日本酒が完成し6日、東京・有楽町で、お披露目会が開かれた。日本酒造りは、障害者の活動を支援する、一般社団

法人ハッピーチョイスが発案、同市の障害者就労移行施設・特定非営利活動法人（NPO法人）ジョブファームなどが連携した。企画・製造に携わった関係者約60人が、完成を祝った。



千葉県
大網白里市

農業者が協力、無農薬で栽培

「幸sachi」

飲んだ人が幸せになるようにと「幸sachi」と名付けた。ハッピーチョイスの白根那子代表は「素晴らしいお酒が

できた。障害があっても、最高の生産者として、活躍できることを証明したい」と語る。酒造好適米の栽培は障害者の自立につなげようと、白根代表がジョブファームに提案し実現。昨年初めて「五百万石」を25㏦で無農薬栽培した。同ファームの高橋正己代表は「米の無農薬は初めて。不安もあったが、障害者も除草などの作業を一生懸命やってくれ、良い米ができた」と振り返る。約1100㏦を収穫。今回、2000本（720㏦）を製造した。



の披露目会では試飲の他、白根代表と高橋代表、荏司氏らによるトークセッションも実施。初

利用し、80粒の水田と

「幸sachi」は、2160㏦で14日からインターネットで販売する。

めでの無農薬栽培で、手探りの栽培だった苦勞、醸造のこだわりなどを披露。栽培に携わった障害者も「除草を頑張った」など、それぞれの思いを話した。



今年栽培面積を約60㏦に広げ、醸造量を2倍にする考え。白子代表は「この取り組みを他県にも広げたい。海外でも販売していきたい」と意欲を見せる。

ブランド化めざし 指導技術を向上 山梨・JAこま野 【山梨・こま野】JAこま野は4日、南アルプス市西野地区の園地で、ブドウの剪定を指導する小林普及

営農指導員の技術向上へ開かれた剪定検討会

「ト」の受 検討会 営農指 参加。 森谷修 知識と 同検 ンマス ド化を 農指導 目的に する。J 長の園 業を行 業を行 剪定方 同士で JA 底し、 を重視 地振興

ブドウの剪定を指導する小林普及

同検 ンマス ド化を 農指導 目的に する。J 長の園 業を行 業を行 剪定方 同士で JA 底し、 を重視 地振興